

■ 編集委員

海老原康博（編集委員長）

秋岡 祐子 片桐 岳信 小林 国彦 千田みゆき 名越 澄子
堀江公仁子 町田 早苗 Chad L Godfrey（五十音順）

■ 編集後記

令和5年度に入り、対面での授業が復活し、埼玉医大の各キャンパスもコロナ禍以前の姿が戻ってきたように思います。学術集会もWEB開催から現地とWEBとのハイブリッドでの開催が広まっています。数年ぶりに現地での活発な議論と旧友との再会など、従来あった学術集会の姿が戻ってきました。これに加えて、これまでは仕事の都合などで現地に行けず、学術集会に参加できなかった先生がWEBで参加することで、最新の知見を得られるようになりました。今後、このような形態が学術集会の姿になっていくのかもしれませんが。

この編集後記を書いているのは7月上旬ですが、今年はまだ猛暑が来ています。連日関東地方は真夏日が続いています。九州地方などでは大雨の影響で浸水の被害が出ていますし、一部の地方では線状降水帯の発生により河川の氾濫や土石流が発生して、大変な被害が出ています。このところ、極端な高温や激しい雨風など温暖化の影響なのでしょう。気象が極端になっている印象です。今後、台風シーズンを迎え、これまで以上のスーパー台風が出現したとしても、甚大な被害が出ないことを祈りたいと思います。

埼玉医科大学雑誌50巻1号をお届けします。

本号には原著論文1報と症例報告1報が納められています。原著論文では、中野由惟先生が帝王切開において、脊髄くも膜下麻酔後低血圧に対するノルアドレナリンとフェニレフリン投与の影響を母体の循環動態や出生児の状態から検討しています。症例報告では、龍野のぞみ先生が前回の妊娠ではB群レンサ球菌の妊娠時スクリーニング陽性のため予防策を施行したが、今回の妊娠ではスクリーニング陰性であったため、予防策を施行しなかった母体から出生した新生児の早発型B群レンサ球菌敗血症例を報告しています。どちらの論文も臨床での注意深い観察から生まれた興味深い内容になっています。さらに、研究マインド支援グラント報告書（2報）、医学研究センター報告とThesisを1報を掲載しています。研究室紹介も1報掲載しました。

さて、今年の11月11日には「第4回オール埼玉医大 研究の日」が開催されます。埼玉医大で研究者が行っている研究を学内の方々に広める良い機会ですし、様々な分野の研究者から意見をいただける格好の機会です。学部学生や大学院生の研究発表もあります。視聴する方としても、埼玉医大で行われている研究を知る良い機会になります。ご自身の研究のヒントが見つかるかもしれません。奮ってご参加ください。

最後になりますが、研究成果の投稿先の一つとして埼玉医科大学雑誌を考えて頂けたら幸いです。皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

（海老原康博）

埼玉医科大学雑誌

<https://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第50巻 第1号

編集責任者

海老原 康博

令和5年8月16日 印刷

令和5年8月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

製作

レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町809番地の5 電話(082)844-7500 <https://letterpress.co.jp/>